

令和4年9月遠野市議会定例会会議録（第4号）

令和4年9月7日（水曜日）

議事日程 第4号

令和4年9月7日（水曜日）午前10時開議

第1 一般質問

本日の会議に付した事件

- 1 日程第1 一般質問（瀧本孝一、多田 勉 議員）

出席議員（16名）

- | | | | | |
|----|---|-----|-------|-----|
| 1 | 番 | 小 松 | 正 真 | 君 |
| 2 | 番 | 佐々木 | 恵美子 | 君 |
| 3 | 番 | 菊 池 | 浩 士 | 君 |
| 4 | 番 | 佐々木 | 敦 緒 | 君 |
| 5 | 番 | 佐々木 | 僚 平 | 君 |
| 6 | 番 | 小 林 | 立 栄 | 君 |
| 7 | 番 | 菊 池 | 美 也 | 君 |
| 8 | 番 | 萩 野 | 幸 弘 | 君 |
| 9 | 番 | 瀧 本 | 孝 一 | 君 |
| 10 | 番 | 多 田 | | 勉 君 |
| 11 | 番 | 菊 池 | 由 紀 夫 | 君 |
| 12 | 番 | 菊 池 | 巳 喜 男 | 君 |
| 13 | 番 | 照 井 | 文 雄 | 君 |
| 14 | 番 | 荒 川 | 栄 悦 | 君 |
| 16 | 番 | 新 田 | 勝 見 | 君 |
| 17 | 番 | 佐々木 | 大 三 郎 | 君 |

欠席議員（2名）

- | | | | | |
|----|---|-----|-----|---|
| 15 | 番 | 安 部 | 重 幸 | 君 |
| 18 | 番 | 浅 沼 | 幸 雄 | 君 |

事務局職員出席者

- | | | | |
|---------|-----|-----|---|
| 事 務 局 長 | 朝 倉 | 宏 孝 | 君 |
| 主 査 | 多 田 | 倫 久 | 君 |

説明のため出席した者

- | | | | |
|-------|-----|-----|---|
| 市 長 | 多 田 | 一 彦 | 君 |
| 副 市 長 | 鈴 木 | 惣 喜 | 君 |

- | | | | |
|---------------------|-----|-----|-----|
| 総務企画部長 | 鈴 木 | 英 呂 | 君 |
| 兼情報推進課長 | 佐々木 | | 啓 君 |
| 兼新型コロナウイルス対策室長 | | | |
| 健康福祉部長兼健康福祉の里所長 | 菊 池 | | 寿 君 |
| 兼地域包括支援センター所長 | | | |
| 健康福祉部保健医療担当部長 | 佐々木 | 一 富 | 君 |
| 兼新型コロナワクチン接種対策室長 | | | |
| 産 業 部 長 | 阿 部 | 順 郎 | 君 |
| 環境整備部長 | 奥 寺 | 国 博 | 君 |
| 会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長 | 新 田 | 順 子 | 君 |
| 消防本部消防長 | 千 田 | 一 志 | 君 |
| 市民センター所長 | 海 老 | 寿 子 | 君 |
| 教 育 長 | 佐々木 | 一 人 | 君 |
| 教育委員会事務局教育部長 | 伊 藤 | 貴 行 | 君 |
| 選挙管理委員会委員長 | 菅 沼 | 隆 子 | 君 |
| 代表監査委員 | 多 田 | 博 子 | 君 |
| 農業委員会会長 | 千 葉 | 勝 義 | 君 |

午前10時00分 開議

○議長（佐々木大三郎君） おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の欠席の届出議員は、15番安部重幸君、18番浅沼幸雄君であります。

これより本日の議事日程に入ります。

日程第1 一般質問

○議長（佐々木大三郎君） 日程第1、一般質問を行います。順次、質問を許します。9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 改めまして、おはようございます。会派遠野令和会所属の瀧本孝一であります。

今任期最後の一般質問となり、会派名を名乗ることも最後かと思いますが、通告に従い、今回は大項目3点について、市長に一問一答方式で質問をさせていただきます。

さて、先般の全国高等学校野球選手権において、仙台育英学園高校が見事優勝し、初の白河

の関所越えを果たして東北に優勝旗をもたらしたことが連日のように報道され、明るい話題となりました。本当におめでとうございました。また、須江航監督の選手を思いやる気持ち、控え選手や応援団をはじめ周りを思い、感謝する気持ち、東北全体を思いやる気持ちのコメントにも深く感銘を受けました。

個人的には、岩手県の高校でなかったのがちょっと残念な部分ではありましたが、昨日の大リーグの試合でエンゼルスの大谷翔平選手が、対戦するタイガース戦で第31号・32号のホームランでの勝利の活躍や、ブルージェイズの菊池雄星投手、ロッテの佐々木朗希投手など、野球史を変えるような県人選手の大活躍に、誇りと元気と希望をいただいている市民も多いのではないのでしょうか。

その一方で、新型コロナウイルス感染症の第7波の蔓延が止まりません。感染者数はピーク時よりやや鈍化したようにも見えますが、9月6日昨日現在、本市の感染者数は1,708人、岩手県が9万6,191人、全国では1,965万人を越え、死者も4万2,000人に迫り、いつどこで感染してもおかしくない状況が続いています。お亡くなりになられた方には心よりお悔やみを申し上げ、思いもよらず罹患されてしまった方々には、お見舞いと一日も早い御回復をお祈り申し上げます。そして、医療従事者をはじめ最先端で新型コロナと向き合っている皆様には、日々奮闘なされていることに敬意を表し、感謝の言葉しかありません。

さらには、今般の大型の台風11号は沖縄地方や九州地方に大きな被害をもたらしましたが、東北地方も影響が心配された中で、直撃を免れたことは幸いであったと思いつつも、この夏も全国各地でゲリラ豪雨や大雨被害が多発し、青森・秋田・岩手県北部などでも大きな被害が発生し、後片づけ等でお盆どころではなかった地域も多くあったと思われます。当市でも雨量が多くなりましたが、目立った被害がなかったのは救いでありました。被災した方々に心よりお見舞いを申し上げ、少しでも早く以前の日常

に戻られることを祈るばかりです。

それでは、大項目1つ目の、物価高騰による市民への支援策に関連して、質問を進めてまいります。

ロシアのウクライナ侵攻による戦争状態は半年以上が経過し、ますます長期化と泥沼化が懸念され、世界経済にも大きな悪影響をもたらしている現況であります。

日本も含めた世界的な経済の不安定化が深刻の度合いを増していますが、原油や穀物の高騰による原材料の値上げに始まり、肥料や飼料、農業資材の大幅な値上がり、電気料金やあらゆる食品の大幅値上げと、再値上げ、再々値上げも続き、さらには流通経費や人件費の高騰と円安などの要因も絡んで、国民生活や第1次産業をはじめとするあらゆる分野の産業に極めて大きな影響が続き、今後においてもあまり改善の見通しが期待できない状況と思われまます。

現代社会は、武力による侵攻をすることなく、輸出資源などを止めてその国の経済をストップさせて行き詰らせる経済戦争が可能な時代と言われ、資源を持たない日本などは、まさに格好の標的となることが予想され、既に現実味を帯びた様相を呈しています。

そのような観点から、順次伺ってまいります。最初に、エネルギー安全保障、食糧安全保障の危機的観点から、昨今のあらゆる分野にわたる急激な物価高騰の我が国の現状を、市長はどのように認識されているのかについて、お尋ねをいたします。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） おはようございます。昨日は生涯リーダー、生涯農業をやるという力強い言葉をいただき、企業化・組織化という1つの課題にチャレンジするという言葉をいただいて、非常によく眠れた夜でした。

そして、今朝、またうれしいことに、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ、アラブ諸国の女性作家の作品を対象としてドイツの文学賞リベラトゥール賞というのがございます。これで、6

日の日に遠野市出身の若竹千佐子さん『おらおらでひとりいぐも』、これが選ばれました。この賞は1987年創設されて、日本人女性では初だそうです。本当に心からお祝いしたいと思います。よかったですと思います。

今の瀧本議員の御質問、これはコロナの感染拡大とロシアのウクライナ侵攻によって世界の情勢はダブルショックを受けています。個人消費の物価指標となる消費者物価指数最新データでは、1年前と比較して全体で約2.6%の増加となっています。特に電気やガソリン、エネルギー品目ですね、これは16.2%、食料は4.4%の増加となっています。そして、さらに企業間取引、これにおける物価指数が国内企業物価指数1年前と比較して8.6%の増となっています。つまり、企業間の取引は次には小売業に転嫁されていくということになります。これは相当の影響が出てくるだろうと、今後、予測しております。世界のエネルギー危機、食料危機に向けた対策、これは重要になっていきます。市内経済、市民生活に与える影響を考えると、これから実質的なヒアリング、その他の影響に関する調査を進めなければいけない。

ちなみに、遠野市役所関連の電気料金1億9,000万円というのがこれまでの通常の金額でございましたが、およそ3,500万円増額となると考えています。遠野市全体では約5,000万円ぐらゐの増額になろうかと考えてます。

昨日、おとといと、自然エネルギーの質問やカーボンニュートラルというお話が何度か出ておりますが、本当にその部分に市も上げて取り組んでいかなければいけないと、そういう状況だというふうに捉えております。

○議長（佐々木大三郎君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） ゆうべはよく眠れたということで、それはよろしかったと思います。

市役所の電気料金が3,500万円も増加するのではないかなという数字にびっくりもいたしました。

次に、この物価高騰は一つの自治体で対応で

きる問題ではないことは十分承知をしていますが、当市の基幹産業である農林畜産業・第1次産業への影響は特に大きいと思われまゝ。私も肥料や農薬の値上がり次第では、来春以降、わずかばかりの米作りをどうしようかと、切実に悩んでいる現状にあります。私のような農家が増えなければいいのですが、そのあたりの認識と、農家に限らず、市民生活全般に与える影響や、このあらゆる物価高騰が新型コロナで疲弊している観光業や商工業なども含めた市内経済への波及、追い打ちをかける事態とならないよう懸念が増すばかりですが、市長はどのような認識をお持ちなのか、伺います。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今、議員おっしゃったとおり、その辺の影響というのは少なからず、いろんな方面に出てくるだろうなというふうに考えています。したがって、これから関係者、皆さんにヒアリングをしたり、協議をしたり、これを進めていくことになると思います。12月補正であったり、新年度予算に反映させていかなければいけないということで、煩わしい思いをさせてしまうかもしれませんが、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（佐々木大三郎君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） これから多方面で影響が出てくるという御認識のようでございます。

次に、多方面にわたる物価高騰の支援策の必要性について見解をお尋ねいたします。

昨日の一般質問の中で、小林立栄議員が原油・物価高騰対策について、1次産業と特に畜産業への支援の必要性を訴えておりましたが、第1次産業の農畜産業は、肥料・飼料・石油を原料とする農業資材の大幅な値上がり、その他の業種でも電気料金やガソリン等燃料費の高止まり、流通経費の値上がりで非常に苦しんでいる実態があることは御承知のことと存じます。

昨日の質疑の中で、経営企画部長からの答弁では、具体的なメニューが詳しく述べられまし

たが、農業関係においてはこれからの施策に対する取組として、一般の農家や小さな農家にとってはハードルの高い支援策という感がありました。

新型コロナ禍では、令和2年度から予防対策と経済対策の両輪で事業が進められ、多額の事業費が投入されて苦境にあえぐ観光業をはじめとする商工業全般に一定の経済対策が施されてきたと認識をしています。

今回の急激な物価高騰は、ロシアのウクライナへの軍事侵攻が大きな要因であるとはいえ、打撃の大きな業種はもとより、一般市民、とりわけ経済的に厳しい家庭ほど大きな影響が重くのしかかってきます。毎日使う電気・ガス・灯油に生活用品、毎日食べる食品類、これらを節約するにも限度がありますが、まだまだ再値上げ・再々値上げが続くと予想されています。

そこで、私は、市内全世帯へ一定額の商品券なりクーポン券を配布し、さらにそれに加えて非課税世帯や低所得者、高齢世帯、子育て世代などに上乘せの追加支援策を講じるべきではないかと提案するものであります。

もちろん厳しい財政状況の中で、公平性・公正性の視点も重要であります。例年どおり年末の冬のあったか灯油券の配布補助をすることも併せて願うとともに、各方面にわたる緊急支援策についてどのような考えをお持ちなのか、あらゆる物価の高騰・急上昇で毎日の生活に苦しむ市民の救済支援策の必要性を伺います。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 各種の国、その他の交付金、補助金、これを活用して経済下支えをしていこうという施策をしてきました。昨日も説明をさせていただきました。

その第1段階としては、コロナに悪影響を受けていますこの次のステージを考えると、業態や様々な転換を図らなければいけないということがまず1つあります。これをポジティブに考えていくための予算というものを最初に作っていきました。国も挙げていますが、減農薬や自

然農法の農業に対する助成金というのは、国よりも早く設定していたというふうに思います。

次に、また非課税世帯という形になってきました。この先、先ほども申し上げたように、次の手を打っていかなければいけません。何もしないということはありませんし、財政が厳しいとしてもやらなければいけないことはやらなければいけない、こういうふうに考えておりますので、御理解をいただければと思います。

ちなみに、詳細、改めて総務企画部長より答弁をさせます。

○議長（佐々木大三郎君） 鈴木総務企画部長。

○総務企画部長（鈴木英呂君） 命により答弁いたします。

経済対策事業として一般会計の当初予算及び補正予算第1号、第2号において12事業、約3億7,129万円を計上しております。

さらに、本定例会でお諮りする補正予算第4号においては、3事業、約1,212万円を追加する提案をいたします。

経済対策事業の方針としては、事業者支援と生活者支援の二本柱とし、危機的な状況にある事業者・生活者への緊急的支援が必要であると捉える一方、いわゆるばらまきのような効果が一時的な事業とならないように配慮いたしました。

特に、事業者支援にあたっては、原油価格、物価高騰対策はもちろんのこと、地域経済の生産基盤がより強固とになり、ポストコロナ期に見込まれる需要を確実に取り込むことができるように、市内事業者のニーズ把握に努め、未来への投資につながる事業を中心に実施しております。

引き続き原油価格、物価高騰の影響を注視し、市民ニーズの把握に努めるとともに、国やの県の動向を踏まえ、必要に応じた対策を積極的に実施してまいります。

原油価格、物価高騰対策を含む経済対策事業の一部を紹介します。

農業分野については、生産性の向上を図ろうとする事業者に対し、資機材等の高騰分等を支

援する遠野産米生産性向上事業費補助金、高騰する肥料代の一部を支援する飼料用牧草政策抑制補助金、特産品の生産に係る燃料の一部を支援する遠野特産品安定生産支援事業費補助金など、6事業を実施しています。

なお、これら農業分野への経済対策事業の詳細については、昨日の一般質問で答弁しておりますので省かさせていただきます。

次に、商工業、観光業分野については、事業展開や経営革新等の事業再構築の際に、二酸化炭素の削減を含めた原油価格高騰対策の取組を支援する商工業再生再構築補助金、今後観光需要が回復することを見据え、関東圏における市内物産等の販売促進や新たな観光需要に向けた取組を支援する観光振興補助金など9事業を実施しております。

特に、運輸交通分野においては、公共交通事業者に対し燃料高騰分の一部を支援する公共交通事業者支援事業費補助金を実施しております。

生活困窮者への支援を行う生活困窮者自立支援金、児童手当受給世帯に一律で給付金を支給する子育て世帯臨時特別支援金、市外の大学や短大、専門学校に在籍する学生に対し食料品等の提供を行う遠野市出身学生等支援事業など4事業を実施しております。

次に、本定例会でお諮りする3事業について説明いたします。

社会福祉事業者に対し、保有する車両に係る燃料費の一部を支援する社会福祉事業者燃料費高騰対策支援事業費補助金436万円、農作物の価格低下に伴う収入減少を補填するための収入保険加入促進事業費補助金約376万円、学校給食の品質保持と保護者の負担軽減を図る学校教育物価高騰対策に400万円の合わせて約1,212万円を計上しております。

以上、現在実施している経済対策事業の一部と、本定例会でお諮りしている一般会計補正予算第4号の事業についての説明といたします。

議員御提案いただいた生活者支援については、国や県の動向、他の自治体の実施状況等を踏まえ、タイミングを逸さない対策を講じてまいり

ます。

以上、答弁といたします。

○議長（佐々木大三郎君） 市長から追加答弁ありますか。

○市長（多田一彦君） ありません。

○議長（佐々木大三郎君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 丁寧な御説明をいただきました。いろいろなメニューが用意されているようですので、スピードとタイミングを見失わないように、ぜひとも適切な執行をお願いしたいと思います。

2つ目のテーマの質問に移ります。

J R釜石線達曽部川橋梁、通称岩根橋鉄橋の橋梁下部河川周辺の環境整備と、隣接自治体との展望スポット設置についてお尋ねをいたします。

私のスマホの通話履歴によれば、8月3日に行政視察先にいた私のスマホに、市内中心部のある方から電話が入り、「瀧本さん、J R東日本で出しているカレンダーの8月のページが、銀河鉄道のイメージでSLが走っている達曽部川橋梁のきれいな写真だけけれども、その写真を見て観光客が行くかも知れない。行って同じような写真が撮れますか」という趣旨のお電話をいただきました。それが、このJ Rのカレンダーに使われている達曽部川橋梁の写真でございます。

私は、その場では、「車では何とか鉄橋の下までは行けるとは思いますが、草木がかなり生い茂っていると思います。後で現地に行ってみます」と応え、行政視察から帰宅後、現地確認をしたところ、予想どおり茅や雑草、樹木が生い茂り、真上を見上げれば6連のアーチ橋が3連ぐらいしか見えませんでした。結構、草が踏み倒された痕跡もあり、やはり写真を撮りに来ている人もいないのではないかと想像され、早急に周辺環境整備の必要性を強く感じたところでした。

その後、宮守総合支所に出向いてその旨を伝えたり、遠野駅で実物のカレンダーの写真を確認

認し、窓口の方に現地の状況や環境整備の可能性も尋ねたりもしましたが、ある意味予想どおり、よい返事はいただけませんでした。

私は平成25年3月の議会の一般質問で、「SL運行土木遺産達曽部川橋梁の位置づけは」と題し、その年の12月からJR東日本が観光と震災復興支援のためにSL銀河の運行を始めましたが、同年1月に本市が立ち上げた「SL停車場プロジェクト推進本部」の関わりや、市長の施政方針演述の中では宮守町の宮守川橋梁、いわゆるめがね橋周辺の活性化を図る旨の方針が示されたことに関連し、質問をさせていただいた経緯があります。

しかし、同じアーチ構造の土木遺産でありながら、めがね橋は場所的にも、ロケーション的にも優れ、地域の方々の精力的な協力できれいな環境を保っている一方、本来の銀河鉄道のモチーフとなった岩根橋は、環境整備も幻想的なライトアップもされず、詩人・宮沢賢治が寝転んで見上げたという川岸まで下りても、草木が邪魔をして景観的にきれいな6連アーチ橋の姿からは程遠い感じであり、その旨を当局に訴え、翌年だったと思いますが、SL銀河の運行に合わせ、川岸の草や樹木を刈ったり切ったりの環境整備を実現していただいた経緯があります。

そこで、最初に伺いますが、平成14年に岩手県初として日本土木学会から認定された、市内JR釜石線に架かる土木遺産の2つの橋梁、通称めがね橋の宮守川橋梁と、特にも詩人・宮沢賢治が猿ヶ石川と達曽部川の合流地点の河原に寝転び、空を仰ぎ見ながら思い描いた「銀河鉄道の夜」の本当のモデルとされている通称岩根橋の達曽部川橋梁の、土木遺産としての位置づけや存在価値をどのように認識されているのかについて、お尋ねをいたします。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） mm1の近くのめがね橋も私は好きで、以前から通ったときは待避所がありますので寄って見たりします。ただ、ちょっと見にくいんですね。あそこにちょっと

表示板とかあるんですけど、あんまり人が歩かない関係か、ちょっと雨降った後とかは滑りやすいという印象がありました。

ただ、それにしても、あの近くにはめがね橋があったり、軽便鉄道時代のトンネルがあったりいろいろするので、そして川のところには発電所の跡もあるんですね。川の水かさが上がったときは、カヌーで発電所の跡まで川から行けるというようなところもあって、私は非常に好きです。

ただ、ちょっと見にくいなというのは、めがね橋、産直のほうと比べて岩根橋のほうは道路に挟まれてるので、そういうイメージでおりました。いずれにしても貴重な土木遺産だというふうに認識しております。

○議長（佐々木大三郎君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 貴重な土木遺産という認識であるというふうに伺いました。

次に、SL銀河の運行については蒸気機関車の経年劣化や、一定の震災復興支援の目的を果たしたことなどにより、誠に残念ながら来年春の運行をもって終了することがJR東日本から示されていると認識をしています。先般、地方のローカル線の収支状況が公表されましたが、厳しい状況が続いている中で、これまでの運行に感謝を申し上げたいと思います。

このSL銀河運行に関しては、平成26年に一度橋梁下の川岸や橋梁付近の草木の刈取り等、環境整備をさせていただいた経緯がありますが、土木遺産としての存在価値や、川から見上げる6連アーチ橋のロケーション、撮り鉄ファンの写真愛好家や観光客のためにも、周辺の環境整備は必要だと思われます。JRや県との協議も必要なことも十分理解はできますが、遠野市の西の入り口としての岩根橋の環境整備について、市長の考えをお尋ねいたします。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今、おっしゃったように、その6連アーチが3連ぐらいに見えると。

県や花巻市、これらが、管理が混ざっていてなかなか難しいところなんだという話は聞きました。

私もこの話、瀧本議員の質問があるまではあまり意識しなかったんですね、申し訳ないことなんですけども。ただ、平成25年に議員が質問されていると。26年に草刈りをしたということだと、議員、3期の任期を今、まっとうされるわけですが、1期目のときですかね、平成25年だとすると。そのあたりはSLが走り始めて、いい感じになってきたと。それから今までの間、遠野市も議員も、私、ちょっと市長になって10カ月なものですから、何かしてきたのかなと。何かの動きはあったのかなと。議会でも質問されたということですけど、私が知る限りでは、あまりそういう記憶がないんですけど、その間、何もしなかったということになると、遠野市も議員もですね。やっぱりそれは弱いだろうと。行動して行って、声を上げて率先してやってくということが重要だと私は思いますし、6連のアーチが3連しか見えない状態になっていることは、3連見えなくなるぐらいそこには行かれてないということでもあるわけですね、議員だけじゃなくて、遠野市のほうも。だとすると、やはり市だけの認識というよりは、しっかりもう一度、近くのそういった遺産というものはみんなが気を配り、目を配るということをしなればいけないんじゃないかなと、私はそれを呼びかけていくということから始めて、草が生えたから市に言って「刈れ」だけではなくて、もっともっと自ら行動しながら地域遺産を守るというところを啓発していきたいなと思います。

私の認識では、河川とか花巻市というような隣接してるところのその辺の細かいところは分からなかったんですけども、これから注視していきたいと思います。

○議長（佐々木大三郎君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 毎年のように訴え続ければよかったかもしれませんが、県、JR、市、あとは隣の花巻という関係もあって、

積極的には呼びかけはしませんでしたけれども、樹木も年数が経てばどんどん大きくなって成長してしまうという部分もあります。

それはそれとして、次に、鉄橋はJR東日本の所有管理、河川は岩手県、国道283号線は国土交通省、そして、川を挟んで隣接する地域は花巻市東和町ということで、例えば展望台や眺望スポットの設置、駐車場や河原への遊歩道の整備、法面の樹木の伐採等、何をするにしても関係機関との難しい協議が必要であることは承知の上で伺います。

達曾部川橋梁は、猿ヶ石川を挟んで南側は花巻市東和町田瀬地区の野金山集落と認識をしています。地図を見れば橋梁から約400メートルほどのところに人家もあり、道路も通っています。しかし、その先は林の状態で樹木が生い茂っているのが国道からも確認できますが、対岸の小高い丘に展望スポットがあれば、ロケーション的には素晴らしい眺めになると予想されます。

そこで、今こそ花巻市と広域連携の枠組みを生かし、当市からの財政負担も視野に入れながら、対岸の野金山地区に展望スポットを設置し、写真愛好家や観光客の誘致につなげるべきと提案をいたします。当然、地権者の方々の了解を得ることと、地域の合意形成が図られなければなりません。異なる自治体の垣根を越え、そのことによって宮守総合支所と東和総合支所との情報交換や連携協力も生まれ、岩根橋地区と野金山両地区の活性化や友好関係に一層の相乗効果が図られると思うのですが、見解をお尋ねいたします。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 意外と私の好きな考え方です。いいなと思います。

あの沿線は、柏木平の上の川が蛇行したところ、それこそトンネルの上のあたりとか眺めると非常にいいし、もうめがね橋産直のほうは恋人の聖地とか、そういう形で行きやすくなってるし、花巻市長さんともよく会いますので、恐

らくあまりそういう認識されてないと思うので、ちょっと相談をしてみたいと思います。いろいろな意見をいただいて検討していくということが重要だと思いますので、御提案をいただいたというふうに考えています。

○議長（佐々木大三郎君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 私も花巻の地元の市議さんともちょっと話はしておりますし、ぜひ上田市長とも相談していただいて、時間はかかるかもしれませんが実現をしていただければというふうに思うところであります。

それでは次に、最後の大項目3点目の、これまでの市政運営の評価と課題、今後の展望についてと題し、質問をさせていただきます。

多田市長は、本田敏秋前市長の引退に伴う昨年10月17日に投開票された市長選挙において、その4年以上前からの後援会活動や選挙活動が実り、相手候補を制して見事当選を果たされ、あれから約10カ月が経ちましたが、新型コロナウイルス感染症が収束しない中で、思うような市政運営ができなかったかもしれません。

就任時や、本年3月議会での施政方針演述ではかなりの部分で、それまでの市政運営を継続する旨の方針が示されていたと記憶をしています。

そこで、伺います。これまでの10カ月にわたる市政運営において、市民からの具体的な反応について、いいことだらけであったのか、その反対のものもあったのか、市長の御懇意にされている後援会の皆様は別として、市政運営に対する反応は、一般の市民の方はなかなか知る由もないのが実情ではないでしょうか。庶民的で気さくなイメージの市長でありますので、この際、正直なところをお聞かせ願えればと思います。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 何とお答えしていいかと、まず正直、思いました。そして、後援会の方は別としてということなんですけれども、実

は私の後援会は、遠野市の将来を考える会ということで、皆さん、活気のある議論をいつもします。あるときはオンブズマン、あるときは応援団、あるときは意見を出してくれる。非常に厳しいです。なかなか褒めてもらえないというのが後援会。そして、よいものはよい、悪いものは悪い、あるときは自分で動き、事業も起こす、そういう方がいろいろ意見を言ってくれたりしてくれれます。

そして、意外と市民の方には、一彦君、分かりやすかったよとか、いろいろこう言ってもらったりしたりしています。何か自分で言うのもちょっとあれなんですけどね。いずれにしても、はっきり言ってもらってよかったとか、分かりやすかったとかって言うことは言ってくれたりします。新たな事業、取組も、子どもの医療費給付事業とか、できるもの、上げればありますけど、妊産婦さんのサポートとかありますけど、理解をさせていただいて、その課題に直面している方からは。

一番、タイミング的に難しかったのが、10月の就任、10月の後半の就任だったものですから、令和4年度予算の編成がほぼ進んでいるという状態の中での就任ですね。このタイミングっていうのがもう少し早い時期でいろいろやれば、年度当初から様々なことはできるんですけど、私は年度当初、疑問があるものはストップしました。そして、それを蓄積して6月補正ですか、この辺からその事業に特色を持たせていくというふうな形で動いてきました。最初は不具合とかいろんなものがあると思いますけども、本当に遠野市を思う職員と一緒に仕事できるなという気がしますので、これから期待できるんじゃないかというような、この自己評価でよろしいでしょうか。

○議長（佐々木大三郎君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） これから期待をしてほしいというような評価であるということでありました。

次に、市長は選挙の公約に何事も市民の皆さ

んと話し合いながら物事を決定して取り組み、市政を担っていく旨の公約をしたと記憶しています。その作業やプロセスは全て公約どおり順調に進んでいるのか、前回6月定例会で私が質問した「遠野市民センター等利用促進に係る4者連携協定書」の一方的終了申出の事案のような事例はないのかどうかについて、再確認の意味を含めお伺いをいたします。

「市民の皆さんの意見を聞いて市政を運営して行く」、この姿勢も当然大事であり、否定するものではありませんが、首長としてつらく厳しい判断をしたり、孤独な立場でリーダーシップを発揮しなければならないときも出て来るかもしれません。話し合って結論が出ないときに判断が遅れ、大変な事態に陥ることも予想されますが、どこまでも話し合いの上、市民全体の合意を求めて市政運営を進めていくのかについて、市長としてのリーダーシップに溢れた答弁を期待するものであります。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これは、今、議員から4者連携の一方的なというお話が出ました。これと、その話し合いというのは相反するようになっていくわけですね。どこまでも話し合いなのかということになると、そうじゃなくて、ケース・バイ・ケース、その状況判断をするのが私はリーダーだと考えています。4者連携についてはいろいろ議員から、あるときは孤独であったり、そういう思いやりのある言葉もいただいたんですけど、議員の皆様も恐らくそうだろうと思います。これは、判断は難しくありませんでした。やってる実績、状況、これを分析してヒアリングすれば当然そういう結果になるということです。そして、話し合いを持たせていただいたときも、これによってこれからも本当に有効な事業を進めなければいけないんだというようなニュアンス、そういうふうに思えることはありませんでした。ですから、私は決断をした。これ、1つのリーダーの役割かと考えています。しっかり話し合うべきところは相談

します。ただ、それをやっているには時間が無くなるということもひとつあります。決断のタイミングもあります。これは、適宜判断していきたいというふうに思います。

○議長（佐々木大三郎君） 9番瀧本孝一君。

〔9番 瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 適宜判断するという答弁だったと思います。

次に、去年の市長選挙では、市政刷新を掲げられ、見事に当選を果たされましたが、現時点で前本田市からの脱却はどの程度進み、刷新したと実感できるものや、手応えを感じられるものの有無、さらにはこれまでの約10カ月にわたる市政運営について、御自身の評価はどのようなものなのか率直に感想をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これもなかなかハードな質問ですね。私は、極力、前政権の感想と、もしくはマイナス点になるようなことを言わないでやってきております。

これはもう私の本当に感謝と尊敬の念。こういうものの表れなんですけれども、このように聞かれると、いろんなことを答えないといけないということになるので、あまり私は歓迎しておりません。これ、自分の気持ちでございます。

まず、就任して、疑問に思うこと、何でこうやったんだろうかと思うこと、結構たくさんありました。建設工事途中のもの、決裁あたりしました。その設計変更であるとか、いろんなものをすぐに直面しました。

私が判断すると、どうしてこういうふうにしたんだろうっていうのもありますよ。確かに、これ誰でもいつでもそうだと思います。

また、ふるさと商社。この前の、全協でも議員皆様に御説明があったと思います。設立するときに青色申告の届けをしなかった。これも私が市長になる前の課題です。その結果、500数十万円、支払わなければいけない。市職員にもいろいろヒアリングしました。

でも、これ市職員も専門家じゃない。だから専門家に依頼したりしてるわけですね。

専門家っていうのは、二、三の専門家が違う分野で入ってくるわけですけど、そのそれぞれの方々にも、ちょっと油断があったと。そして最後は、誰が担当したんだと。その事情説明してくれということになる。そういう状況が、まずありました。

非常に残念です。建て直しをしようとしてスタートしたものが、そういう基本的なことをできない。

それから、外山のソーラー発電の土砂の流出の件もそうでした。あとは第三セクター、外郭団体、これらの経営再建、私はすぐに事業別収支、それぞれの課題を抽出するためにそれを求めました。分析しようという考えです。

ところがですね、各外郭団体は事業別収支を持っておりませんでした。これなぜ今まで、様々課題があったんだからそういう準備はしてきたでしょうという話をしたんですけども、まずそういうものを要求されないということは、前政権の中ではそういうものは経営改革という名目はあっても、実際にはどのようにされたのかということも疑問になり、それをつくるには数カ月かかります。やってないわけですから。

そこからの判断という形になっていきます。まだいろいろあります。そういうものから、どうやって脱却していくか。ついこの間も国保の会議ありました。国保の基金が、今回なんとかもったんですけど、来年度もちません。これも6年、7年前に調整に入っていなければいけないものです。水道料金、昨日説明しました。

令和6年には恐らく6,000万の赤字になるでしょう。これが、そこから赤字が終わりじゃなくて、そこから赤字が続くんです。これらも、一つの脱却したい部分であります。これをしっかり精査して、好転させるための政策をとっていかなければいけない。ここに今向かっております。

ですから、簡単にやれるものだけでもないし、刷新するといってもそこは刷新できませんよね。

例えば刷新するとした場合、委員や役員の方に代わっていただくということもありますけど、これも任期というものがあります。任期満了であれば、代わっていただくということもできますけれども、任期前に代わっていただくということはいかがなものかと私は考えています。

その中から経営計画とか、様々なものが出てくるわけですから、これは私の待つ苦しきということも、そして整理していく。過去のを整理していくという大変さも同時に背負っているということは御理解いただきたいと思います。

いずれにしても、本田市長の功績も称えつつ、尊重しながら進めていきたいというふうな考えでおりますので、よろしくお祈いします。

○議長（佐々木大三郎君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） あえて質問させていただいたのは、市政刷新という言葉掲げて選挙で当選されたという部分があったので、お尋ねをいたしたわけでございます。

次に、市長は市政運営において、行政の継続性や安定性をどのように捉えているのかについてお尋ねをいたします。

前述した遠野市民センター等利用促進に係る4社連携協定書の一方的終了申出の事案は、一旦リセットという名目の下、事業が打ち切られた格好となり、継続を望んでいたと言われるそれまでの当事者にとって青天の霹靂であったとも思われます。

どのような事業においても、見直す部分には手を加えながら修正しつつ、よりよい方向に導くのが行政の役割だとも思いますが、いきなりの事業の打ち切りは行政の継続性や安定性に著しく背くものであり、市民生活に直結するものであれば、行政の信頼をも失いかねないと危惧するものであります。

行政の継続性や安定性の重要性について、市長の見解をお尋ねいたします。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。なお市長には、答弁残り時間4分ですので、その辺も考慮しながら簡潔な答弁をお願いします。オー

バーできますけど、その辺を考慮の上で簡潔にお願いします。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ハードな質問をいただいているので、時間も少しかかるということで私も早く回答するように努力をしたいと思うんですけども、どういう意味で継続性、意味での安定性というふうに言われてるかっていうのはこれいろいろあると思いますので、私が思う継続性、安定性というのは、バランスよく考えて行動するということです。これ予算も行動もバランスよくやっていくということなんです。

第2次総合計画後期基本計画というものがあります。これは市長がつくったものじゃないです。ハンコ押ししましたけど、職員、ほかの機関、多くの方の意見を聞きながらつくったものです。ですからこれ、市長が変わったからと言って、変える。計画をですね。これはいかがなものかと。

ただ、その中身を予算のあり方、行動の仕方に変えるということは、前にもお話をしました。私は決断力、説得力、そしてイメージの共有、メリハリのある緩急自在な采配、これが継続性と安定性を導くと思います。そして相手を思いやって、しっかり実現していくということが重要だと考えています。

先日の4社連携、これは市民生活、その他に大きく影響あるという点で、今議員がおっしゃったこととは少し異なるかなというふうに考えていますので、よろしくをお願いします。

○議長（佐々木大三郎君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） あまりハードな質問と私は思っていませんでしたけれども、最後の質問に移ります。

市長は、今後3年余の任期がある中で、永遠の日本のふるさと遠野をどのように維持発展または改革していくのか、そして市民憲章や総合計画、後期計画との整合性や関係性をどのように図り、御自身の思い描く遠野を作り上げていくとするのか。そこに多田一彦カラーをどの

ように出していくのか、現時点で今後の市政にかける具体的な施策や展望をできるだけ丁寧に分かりやすくお示し願ひ、間違いのない市政運営に期待しながらお尋ねをいたします。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） できるだけ丁寧ということなので、ハードな質問というのは私はあまりネガティブなことをお話しして行って、市民の方に心配をさせたくない。批判的にもなりたくないというのがあります。

ですから、若干そういう回答をしなければいけないときは質問がハードだなというふうに考えています。そういう意味でのハードな質問でありまして、今後3年間、具体的な施策展望ということでございますので、できるだけまとめますが、先日の荒川議員の質問に答弁したように、全ての市民の方に関わる問題というのは、もう全部です。全体に一生懸命バランスを取りながらやりたいというのが一つあります。

その中で一部ずつ、御説明させていただきたいと思いますが、大綱の1においては、除雪大作戦会議というのをこれからやっていきます。みんなで除雪というものを考えていきましょうということですね。安心安全なまちづくり。また、開発行為等、これらに対する基準はしっかり技術基準を作っていくたい。これも申し上げました。

大綱2においては、介護サービスの充実、どう考えてもですね、介護保険との兼ね合いもありますけれども、待機する要介護者多いです。やっぱりもっと必要じゃないかと私は最近思っています。

実際私の父も市外でしたし、叔母も市外。そういうことからすると、これ重要だなと。それに付随してインターンシップを使えるようなシステム、人材不足を補うような形というのを作っていかないと。思います。

それから、冬期間、要支援者でも要介護者と同じような、本当大変な動きになってくるわけですね。ですから湯治場とかですね、そういつ

たものは前から言っておりますし、今回も各関係課に指示を出しております。

それから、大綱第3においては一次産業の活性化、農業の魅力を発信する。農業起業塾、農業の集団化企業化。これはもう昨日も本当にうれしかったんですけども、そういうものがあります。

それから、東工業団地サプライヤーパーク、ようやく人をどうするかということが具体的に協議されるようになりました。これまでは、遠野の魅力を伝えようとか、アピールしようというところでとどまってきたんです、イベントをやろうとか。これが外国人人材も必要じゃないかとかですね、どこに住まいをして、どういうふうにする、こういうふうに具体的に became きました。

これをさらに具体的にしていきたいし、人が増えたときの環境、教育ありますね、このコミュニティ・スクール、これを充実させたいということは、教育を充実させていくということは教育長、それからアドバイザー、この働きによって三者連携進めることができた。これから、地域でさらに活動する人をサポートできるような体制にしなければいけない。同時に、事業を興していくということは、今の疲弊した社会にはどうしても必要です。

ですから、市民活動サポートセンターというものも、急がなければいけないなど。サービス向上にはDX、これ必要です。それこそマイナンバーカードの話も質問ありましたが、これ本当に同時に進めていかなければいけない。これらをできるだけスピード感を持って、一生懸命やっていきたいというふうに考えています。

○議長（佐々木大三郎君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） これからの施策に期待をし、ぜひ頑張っていたきたいというふうに思います。

この4年間、昨年9月議会までは本田前市長と、そしてここ1年は多田市長と毎回一般質問を交わさせていただきましたことに、改めて

感謝を申し上げるものであります。

少子高齢化の進展と人口減少、新型コロナウイルス感染症による予防対策や経済の循環、物価の高騰や基幹産業の衰退など、取り巻く環境になかなか明るい光は見えてきません。

この遠野郷が豊かな実りの秋を迎え、鎮守の森の神様の境内ににぎやかな祭りばやしに戻ることを祈るとともに、市民が夢と希望の持てる市政運営にパワーを発揮していただくことを望み、以上で私の一般質問を終わります。

○議長（佐々木大三郎君） 10分間休憩いたします。

午前11時03分 休憩

午前11時13分 開議

○議長（佐々木大三郎君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 任期最後の定例会、そして最後の質問者となりました多田勉でございます。

先ほど市長は、昨晚はゆっくりと眠れたと。私は本日の一般質問で緊張して眠れませんでした。非常に市長が羨ましいなと思っております。

そこで、緊張しながらも、先ほど休憩時間中には同僚議員たちから、今日のトリだと、またさらに緊張をしております。

真剣に質問してまいります。

大項目3点について今回は質問させていただきますが、まず最初に、大項目1点目、宮守町の振興対策についてを質問してまいります。

平成17年10月1日、新遠野市が誕生いたしました。当時、宮守町は西の玄関口であり、西の玄関口にふさわしいまちづくりをするということ言われてまいりました。

町民はそのことに大きな期待を持ち、輝く未来の姿を脳裏に浮かべながら、市の発展に一丸となって今日まで取り組んでまいりました。

しかし、大きな期待とは裏腹に、目に見えて衰退していく現状に、町民からは悲観の声が多

く聞かれます。その実態は、まさに深刻な状況であるというふうに痛感をいたしております。

市長は、市長就任後、多くの市民から多くの声を聞き、それに応えるべく日々努力されていると思いますが、その中で宮守町の現状と課題をどのように捉えているのか。

以前の質問に対して地域の委員や協議会が検討、協議を進めているというような答弁をしております。私は、行政としての考え方も必要であると。どのような全体像に向かっていこうと考えているのか、市長の考えをお聞きしたいと思います。

人口の流出に歯止めをかけるためにも、宮守町の地理的条件を生かした企業、団地等の整備など、行政の主導でできる振興を早急に求めているという状況にあると。近隣からの雇用拡大も含め、地域の経済活動に波及されるようなことも含めて取り組んでいく必要があるのではというふうに思っております。

市長の西の玄関口にふさわしいまちづくり実現に向けた今後の考えをお伺いいたします。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私も今議会一般質問最後の答弁になりますので、しっかり気を引き締めてお答えしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

議員のお気持ちは、本当によく分かります。私は月に一度、宮守総合支所で勤務をしておりますが、そのときには待っていてくれて、いろんな話をしようという方が来てくれます。課題があると、これについてどうなんだとか、しかもですね、遠慮がちに入ってきて話をすると、本当にその辺のこの気持ちを感じます。

私がお話ししていることは、西の玄関口にする、温泉に近いということを武器にすると、新しいその生活圏というものをつくっていく必要があるだろうと。そうすると、それはハードな工事とか計画も伴ってくるものなんですね。これをどういうふうにしたいかっていうことは、もう一度宮守の方々を考えていただきたい。

例えば、銀河の森の、私適当に今しゃべりますけど、銀河の森を中心にちょっとした開発、いろんなものを集めていこうとか、いろんな提案できると思うんです。これらを考えましよう、ワークショップしましよう。mm1の中に図書館があつて、その横には鉄道のあの模型があつたりしますけれども、私はあれ効果があるのかなと実は疑問に思っています。

これらも、なぜかという町民の方に聞くんです。「あれを変えてくれ」と。私もなるほどなと思うところもあります。そういうことをワークショップやりながら、やりませんかという提案しています。

それと、例えば無理だとしても、ここにこういうふうにして、まちをこういうふうにしたいとか、そういう提案とかですね、そこから始まると思うんですね。これをもう一度やりたいというのが、今思っていることです。

そして、若干申し訳ありませんが、諦め、言っても無駄だとか、諦めの感覚は持たないでいただきたい。できないかもしれないけども、どんどん一緒にチャレンジして、話し合いしながらやれることを見つけていってアクションを起こす、これをしたいと考えています。

そして、さっき瀧本議員がおっしゃっていたのがね橋、これはあそこ、今写真見せてもらったんですけど、カヌーであの川に行ったらいいですよ。そういうメッカのつくり方もあると思うんで、早速カヌーを持って行ってみたいと思うんですけど、とにかく活性化していくために、アクションをみんなで起こしていくことをしたいというふうに考えています。

○議長（佐々木大三郎君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 今ワークショップという話もありました。再三、今まで先ほども申し上げましたが、地域の方々の意見は何回とも聞いてきているはずで。ですから、今市長がお答えになったワークショップ、これをやるのであれば早急にやっていただきたい。

早急にやって、来年、再来年いろいろ年数を

経過するのじゃなくて、以前から地域の方々は協議、話をしているはずですから、行政としての機能を持って早急に御対応していただきたいと強く願うものであります。

情報ビジネス校の跡地についても、以前に質問がありました。この問題も議論をされてきていますけれども、そのことも含めて、新たな地域の再生につながる事業、そういったものの展開を私は積極的に進めるべきじゃないかなと。

市長も多分心のどこかにあるかと思いますが、新たな企業の誘致なり、いろんな方策も、市長としてのお考えもあるかもしれませんが、その辺の考え方を、ちょっと市長の考え方を伺いたします。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず、宮守、情ビのことももう一回お話ししたほうがいいですか。いいですか、はい。

では、暮らしにくさっていうものがないかということです。それは子育て、出産、それから福祉などの部分で人口減少というものがなぜ起きていくかと言ったら、暮らしにくさがあるからだっていうことは、以前にお話ししたと思います。これをどうやって解決していくかということ、政策ですよ、まず。

その政策に民意を反映させるということが重要ですが、その反映させるために、あるときはハードを準備しなければいけないし、あるときは何かの事業を切って転換するとか、様々な決断が必要だと考えています。

そういうことをしっかりしていくということが、私のまず任務ですね。ワークショップ何回もやったかもしれないんですけど、すいませんけども私から見ると弱いです。ワークショップが。ちょっと私も一緒にやりたいんです。あのファシリテートでも役は何でもいいんですけど、一緒にそのmm1のその場所でワークショップをさせてくれっていうのを、私今総合支所とこの言ってくる方々、例えば地連協の方々に話しています。

ですから、ぜひ早く私も入れて、ワークショップさせてもらいたいというふうに思っています。

それから、宮守の風景、風景をもっとプライドを持って考える、若干お金かかるかもしれないけど、例えば屋根の色であるとか壁の色であるとか、工夫するというのをすると、車で来たときに、あそこの山沿いに家があって、沢があって、川があってこれ、ものすごい風景ですよ。

この辺も、ちょっと変えるだけで、私もうそれだけ見に来る人いると思うんです。だから、自分たちのいいところをもう一回発見しようじゃないかっていうのが私の考えです。それ一緒にやって、それぞれができることをまずアクションを起こす、これにしていきたいと、そういうふうに思っています。

○議長（佐々木大三郎君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 決断、それが市長の任務だと、ぜひ早く決断をしていただきたいと思います。

今までやってきたことの検証も私は大事だと思いますし、その物足りなさがあれば、それをどのように引き出すかということも私は大事だと思います。そして、市として西の玄関口はこのような姿でどうだというようなことも、そのワークショップで生まれてくるかもしれませんが、そういったことも十分考えていただきたい。

そして、私先ほど企業の誘致等の考えについても伺いましたので、それを答弁していただきたいんですが、以前はにぎわいを見せていた新町地域も、非常に空き家が増えてまいりました。そういった中で、若者が安心して生活できる環境、そういう職場も含めてですが、そういう環境づくりが私は大事だと思います。

景観もちろん大事ですけども、どうやったら生活できるかということが、私は必要だと、重要だと思います。そういった意味から企業の誘致、そういったものも考えるべきだと。

東の玄関口には東工業団地があります。西の玄関口には西の工業団地があってもいいんじゃないかと私は常に思っているんですが、その辺も含めて市長の考えをお答えを頂きたい。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 誘致企業というのは、もちろん常に受け入れるという考えであります。例えば台湾にしても、海外にしても、そのチャンスはあるだろうと。台湾に訪問する計画もつくっています。そのときには、企業を回るつもりでもありますし、交流を深めるということもあります。遠野にある産業ではなくて、遠野にまた新しい産業という部分の視野もあると思いますね。それと、市内で合弁企業をつくっていくという方法もあります。

また、例えば今附馬牛町にキャトルセンターがあります。これは、今繁殖下がっているとかいろいろありますけれども、これ絶対遠野の強みですから、これに力を入れるとすれば、その繁殖農家さんで集団的に企業化していただく。

そして、もう少し頭数を増やして、あのキャトルのシステムを取り入れながら宮守に1カ所つくる。これを宮守の地場産業、推進、それと企業化、これにつなげていくと。

そして、飼料をどういうふうにしていくかっていうところをつなげていくと、これ私遠野には私が計画しているっていうよりも、常に考えているんですけど、3カ所はそういうものが欲しいなというふうに考えています。宮守に1カ所、上郷、青笹、この辺に1カ所、そのぐらいあって、遠野は畜産の有力地だというふうにしていかなければいけないんじゃないかと。

そのやる気のある方々に集まっていただいて、その会社をつくって設備投資するときは、これ私頑張ります。サポートしていきたいし、そうやっていかないと変わらないと思うので、外に会社を求めるのもありますけど、中でつくりたいというのは、一つ強い思いを持っています。

○議長（佐々木大三郎君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 市長の今の答弁十分分かりますけれども、見通しを私は求めたい。というのは、このまま日数を経るのじゃなくて、地域の先ほどワークショップの話もありましたけれども、そういったことも踏まえて、市長はいつ頃その決断に持っていこうと考えているのか。

その話が決まったらば、その話を聞いてから考えるべということじゃなくて、今の現状を宮守町の現状、これを早く何とかしたいと、そういう考えがあるのであれば、早めに私は決断すべきだと思います。

それは、若者がどんどん沿線のほうに、どんどん仕事に行っています、遠野市内全域から。そういった姿を黙って見ているわけには、私はいかないと。

もちろん、我々もそういった今後の考え方というのを一生懸命考えるべきではありますけれども、行政の首長として、市長はどの時点をめぐりに私は決断をするのか。ただ、誰かがその話のあれを持ってきたらば考えるということじゃないと思うんですよ。

私は、これをめぐりに判断したいので、ワークショップを開いて、ちゃんと声を聞いてまともないかと、そういう私は物づくりというか形をつくっていただきたいと思うんですが、その辺はどうですか。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 遠慮がちに物を言う性格なものですから、その決断に聞こえないかもしれないんですけど、決断はもうしているんです。

だから、説明会なりそういうものをしてやっていけば、すぐにできると。企業に関しては、要するに誘致する企業に関してはそうはいかないでしょう。ですけど、例えば畜産、これらに関してはもうできるわけです。

その決断していったって、アクションを起こすための要素、これをそろえなきゃいけないです。プレーヤーがいなきゃいけない。バックアップします、市は。場所とかそういうロケーション

とかあります。これも何とかありますよね。

ですから、後はそれぞれの決断で事を運べると考えていただければ結構です。

○議長（佐々木大三郎君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） いつやるのかって、今でしょっていう話も前にありましたけれども、市長の決意、私は安心して受け止めてよろしいんでしょうかというふうな思いでありますけれども、ぜひ期待を持たせていただきたいというふうに思います。

多分これを見ている町民の皆さんも、大いに御期待をしているというふうに思います。ぜひ明るい光を灯していただくようお願いをしたい。

以前には、会社名は言えませんが、鶏の養鶏の大規模誘致の声がけもあったようですけれども、遠野市の開発云々、電気のソーラーの云々、そういった問題があって、遠野市に来たいけれども、遠野の規制が無理だったと。それで、その大きな企業です、日本でも有名な企業なんです、その企業は、水沢に誘致場所を決定したということでありました。

常に遠野市はそういった誘致先の注目的になっているということをお忘れしないで、私は対応していただきたいというふうに思います。

それでは、大項目2点目、公共施設の維持管理についてをお伺いしてまいります。

遠野市では、市営住宅の維持管理に関する業務を指定管理者に委託して行ってきておりますけれども、委託したことによるメリット、デメリットに関する検証は行われてきたのか、検証しているのであれば、その結果も併せて伺ってまいります。

市営住宅の現状を見れば、維持、修繕が必要と思われる箇所が散見されます。指定管理に移行する際も議会で大分議論をされてまいりましたけれども、維持管理の仕分けの考え方はどのようになされているのか。

悪い環境を改善し、入居者に安心、安全を提供していかなければならない役割が、私は遠野

市の立場としてあるというふうに思いますが、維持修繕に向けた市長の考えをお伺いします。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） メリット、デメリットってところからいきますと、委託することによって、担当する職員がほかの仕事ができるということで、市役所の中でも人手不足というものはありますから、その点ではメリットは大きいと思います。

また、ついでに申し上げますと、市役所の職員、新規募集しているんですけども、なかなか希望者が少なくなってきたというのも、ひとつこの場で言わせていただければというふうに思います。

それで、その修繕に関しては、まず一定金額で分けているというのがありますね。全てそういうふうになっていると思うんですけども、例えば令和3年度から5年度まで、市営住宅は管理業務、指定管理しております。

指定管理の業務は、自主事業を含め入居者からの問い合わせや手続、これらを賄うわけです。そして、定期巡回、そして維持修繕で金額の大きい部分に関しては市のほうに連絡する。自分たちが直す範囲に関しては直すということをしております。

そして、評価としては満足度のアンケート調査をしております。アンケート調査っていうのは、もう結果が出ております。5段階の評価をいただいているということなんですけれども、大雑把なアンケート調査で、これさらに問題点があったりとかいうことであれば、もっと詳しく伺っていくということになりますけれども、この評価をお知らせしますと、5段階評価中4以上が30%でした。3が58%、ですから3以上が88%あるというのが現状でございます。

なかなか問題を抱えた方っていうのは、具体的な問題っていうのは、市の方に直接来たり、対応したりしていますけど、その日常の中での細かいことっていうのは、この中ではもう拾っていませんので、単純な評価と受け取っていた

だければ。

入居者からしてみると、休日も夜間の緊急連絡、修繕確認のスピードアップ、巡回訪問による安否確認などのメリットがあると。

デメリットというのは、指定管理の制度に関して若干分からないってことがあります。市のほうからすれば、事務の負担軽減、入居者の情報を随時アップデートしていけるということです。そして、職員がほかの業務に就けると。

デメリットとしては、委託料というのはかかるんですけど、私は費用対効果があるなというふうに考えています。また、修繕に関しては先ほど申し上げたとおりですので、そういうふうに御理解いただければと思います。

いずれにしても、その契約期間というものがありますので、契約をまず満了していただく、そしてさらにいいサービスをしていけるようにということを相互に協議しながら進めたいというふうに考えています。

○議長（佐々木大三郎君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 公共施設のことですから、今の市営住宅の指定管理については分かりました。

それで、公共施設ということですから、もうちょっとお伺いしますが、既に廃止されている綾織町の清養園クリーンセンター、この中に、放射能汚染対策の一環で設置されていたハウスですか、あるんですが、中に備品なのか廃棄物なのか、みんなあそこにある施設は廃棄物処理の施設だというふうに理解しているようですが、そうではないような感じも聞こえてまいりました。

そのことで市の財産管理上、私はもしそうであれば、好ましい管理体制ではないなというふうに思いますので、今のその管理状況はどのようになっているのか、お伺いをいたします。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） テントですから、現在一時的な活用という形になると思うんですけど、

これを前提に理解していただきたいんですけども、現在は重機備品、例えばですね、テント、コンテナ、ドラム缶、それからそれを運ぶ重機、公用車、それと貸出しをする草刈り機械もここに保管してあります。

アルミブリッジ、積み込みのときのものでですね。これらが今あると。あとドラム缶というのは、蛍光灯とか、そういうもの保管しているドラム缶ですね、これらがあります。

○議長（佐々木大三郎君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） そのような管理、今聞いていると草刈り機械とかですね、それにゴミの運搬とか何かに使うものであれば、それはそれで私はいいと思うんですが、その草刈り機械とってというのは、そこにだけ関係している備品なんですか、その辺はどうなんですか。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 地区にも貸出しをしている草刈り機械です。

○議長（佐々木大三郎君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） やっぱりそうやって地区に貸出しするのであれば、場所がなければですよ、あそこのテントにしっかりちゃんと表示をするなり、そうしないとあそこのもうクリーンセンター閉鎖しているわけですから、その敷地内の一角にそういった管理をやっていくというのは、やはり地域の市民から見ても私はちょっと好ましい姿じゃないなと。

もしそうであれば、このテントはこうですというふうな表示なり、ちゃんとしてやらないと、何かあったときに私は問題が起きると、そうなるからでは遅いと思いますので、ぜひそういった対応は簡単にできると思いますから、ぜひそのようにしていただきたいというふうに思います。

それで、先ほどの住宅に戻りますけれども、今住宅を私見て歩いていると、排水の対策の悪い住宅、特に笠平の住宅なんかは、山からの水

が抜けない状況になるんじゃないかなと、それによって住宅内の湿気が進んでいるとか、そういった話も聞いています。

それから、私青笹のほうに、森林組合さんのほうにちょいちょい行くんですが、その際に見ると、鶯崎住宅の屋根がさびてひどい。自分の住宅だったら、素早く私は塗装するんだろうなと。何でそういう考え方にならないのかなと。

ああいう姿を見れば、私達が住んでもいいわけですよ、本当は。ああいう本当に将来もこの住宅に市民が住めるように、ちゃんと管理していくのかどうだかっていう不安をあおるような私は状況に今あると思います。ぜひこれは市の財産ですから、健全な管理を私は求めたいと思いますが、市長どうでしょうか。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 予算がない、予算がない、ここに予算を集中しなきゃいけないっていう考え方で大きなお金を今までつくってきたと、大変な苦勞をしていると思います、担当者も職員も。

これ本当は直したいんです。そういう声いっぱい来ますよ。私は、それを整理して実現するために、順番を決めてやらなければいけないと思うんですが、同時にその住宅の合理的な活用ということをもう一回考えなければいけないと思います。

これはこうです、あれはこうです、だから空きがあってもこれしょうがないですとかっていうことじゃなくて、しっかり活用できるようなその計画的な利用、また高齢者の方が使いやすい住宅であるかどうかということも、これ見なきゃいけないですね。どう考えてもこの階段上って住むのは無理だろうという方もいらっしゃるわけですね。

そういう点で、もうちょっと優しく考えていかなければいけない点もありますし、そういう住宅っていう部分もあるので、例えば引っ越したくないっていう方もいらっしゃるかもしれないけども、説得してやっぱり生活しやすい、使

いやすいところに引っ越していただくとかですね、積極的にそういう部分も進めていきたいというふうに思っています。

○議長（佐々木大三郎君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 今、鶯崎住宅の屋根のこと話をしましたけれども、新しく建てた団地内の住宅の路面、それも大分ひどいというふうに聞いています。浮き沈みがあって、斜めになっているというような、そういう状況もあるわけですから、しっかりとやっぱり計画性を持つてというふうな市長の考えだと思うんですが、ぜひ傷が深くなればなるほど、予算もかかるわけですから、早め早めの対応をすることも経費節減につながると私は思っています。ぜひそのようなことも含め対応していただきたいと思いません。

それでは、大項目3点目、入会林野の整備についてであります。

この入会林野、国には入会林野等に係る権利関係の近代化の助長に関する法律というのが定められております。そのことを基にしながら質問いたしますが、市内に存在する入会林野が抱える課題、この現状をどのように市当局は認識しているのか。

入会権者の中には市外の所有者、そして所有者死亡等による年数経過が原因で、管理運営に支障を及ぼしていると。今後さらにその現状は厳しさを増すと、深刻な状況に向かう一方であるというふうに私は危惧しております。

現在、市内において入会林野の整備、これが行われず個別所有権を取得できていない地域は何箇所あるのか。

旧宮守村時代の昭和50年代であります、国県村の助成制度を活用して個別所有権を取得して、個人個人が林業経営や固定資産税の納付などを行っておりますが、未整備地域においては、代表者や入会権者の死亡等によって納税関係の業務や相続変更などの確認に大変苦勞されていると。

今後、将来にわたって林業経営や納税義務を

果たしていくには、個別所有権取得が必要であり、そのためには制度を活用しての整備の支援が私は必要ではないかというふうに考えます。

また、遠野市では未来永劫にわたる森林資源などの健全な管理、運用、そして円滑な納税義務の遂行を支援するためにも、先ほど申し上げました入会林野等に係る権利関係の近代化の助長に関する法律に基づいた入会林野整備事業の導入を図って、早急に対策を講ずべき重要な課題であると私は認識いたしますが、市長はそのことをどのように認識し、お考えなのかをお伺いいたします。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これは日本全国の問題で、本当に大変な問題です。所有権をしっかり確定していない入会権という形で登記されているわけですね。相続人が100人、200人、ひどいところではもう500人以上になるというのが実態です。

当時は、これが優位であるとか、資源、自然の資源を共有する、例えば地域の大事な財産だったということでみんな管理したものだったわけです。これが時代が変わって、使われなくなってきたということです。

この所有権とか登記という問題は、国で定められた法律の中にあるので、これ実はなかなか難しいところがあります。じゃあ、誰が400人、500人回って歩くんだということになるし、それこそ明治時代の人の名前になっていると、そこから相続人が何十人になってるわけですね。

これは、しっかりそこに対応する制度を、登記の問題、所有権の問題も含めてつくっていかなければいけないし、今議員がおっしゃった事業、これをしていくにしても、様々な支障もあることです。

例えば、県外になりますけれども、宮城県なんかは、法務局から積極的にその入会権、入会権とかありますね、そういう権利者に文書が行くようになっていきます。そして、それに対してどういうふうに回答していったら整理するか、こ

れ進んでいるんですね。

私、コンサルタントをしているときに、いろいろそういう相談も受けていたりしていました。宮城県の方からは、意外とそういうものがあります。価値があるのかないのか、いやこれそういう権利のもので価値云々のものじゃないからと。

価値を主張していったら、これももうまとまりつかなくなるから、そもそも公共的なものだということからすれば、皆さん協力して判子つくべきですよというのを、私相談された場合は話をしています。これ整理していかないと、本当にもうこれどうしようもなくなると。今恐らくどうしようもない状態だと思います。国のその制度の中で、こういう問題を真っ向から解決しようという方向で、事業を進めるべきというふうに思います。

ですから、市ができることは何かということを見ると、その点、今議員がおっしゃったような部分を陳情したり、お願いすると。今こういう部分で困っていますということをしていく。それと、その事業を起こして、林地の管理等できるようにしていくということは、これ急務であるというふうに考えています。

○議長（佐々木大三郎君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 確かに難しい。明治、大正時代の所有者がそして亡くなっている。子や孫の代まで遡らなければならないと、これは非常に難しい。

ただ、できるところもあるわけです、今。ありますから、例えば宮守町の細野地区細野入会林野、これも現在しっかりと税金を納めています。

ところが、高齢化になって今の段階、今だったら入会林野整備事業で何とかできると。早くやらないと、みんな高齢化していますから、いつ悪い方向に行くか分からない、私はそういうところもあると。

みんなみんな難しいわけじゃなくて、市がその入会林野整備事業、それを導入することによってできるところも今現在あるわけですから、

そういったところの対応を私はすべきですし、もう一つは、市内にどれだけあるか、できるところ、できないところが、それをやっぱり市長は把握すべきだと思います。大事なことだと思います。みんな何ともならなくなってしまうところが、どんどん増えていく、これはただただ見過ごすだけのやり方ですよ。

できるところがあるんだったら、国、県の援助を受けながらしっかりと対策を講じてやるという姿勢が、私は遠野市にあっていいんじゃないかなと。

特に、先ほど申し上げました細野地区の入会林野、ここは話に聞いていると県外1人、それから市外3人、あとは市内でみんな健在でおります。そこは、宮守合併前にやってきたんですが、その後合併してしまって、今の状態で残っていると。ぜひですね、できるところもあるし、これからできるところがないのか、そういったのをちゃんと把握してやるべきだと思います。

私はさっき市長が職員の定数とかいろいろ、私は経費削減が遠野のいい姿ばかりじゃないと思いますよ。やっぱり職員が必要で、しっかりとその対策ができるという姿に持っていくためには、そういう組織のつくり方も私は大事だと思います。

財政が厳しいと、それはみんな分かっていますけれども、ただ厳しいから、それも全く待つてけるということじゃないと思うんですよ。やっぱりできるところがあるんであれば、できるところに手を差し伸べてやるというのが、遠野市の私はやっていかなきゃならないことじゃないかなと思うんですが、市長、その辺はどうでしょうか。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 何か今のお話を聞いていると、そういった課題があってもやってないというふう聞こえてしまうんですけど、そうじゃなくて入会権、入会林野っていうのは権利者がいるわけですね。ですから、具体的な相談をして、じゃあそれをどういうふうにしていき

ましようかということ、これ協議していけば、その権利者の方に当然動いていただいたり、連絡していただいたりしなければいけないですよ。権利者の方々がこれ全部役所やれっていうことだと、これ大きな間違いで、じゃあ今議員おっしゃっているように、これは簡単にできるよと。じゃ、果たしてそれが要件として簡単にできるようになっているのかどうかと、この辺もしっかりと確認しなければ、じゃあいいですよっていうものでもないです。

ですから、これは事務的にしっかりと協議してやれること、やれない、どこが難しいかということを見極めながら進めればいいことであって、これ通常の仕事の中でやっていけることで、合理化とか、その費用の削減とかっていうことにはつながることではないと考えます。

ですから、今遠野市内には旧宮守、旧遠野市含めて3件入会権あります。今議員おっしゃった細野地区はその一つですね。ですから、これもし少人数で解決できるようなものであれば、これ具体的な事務協議、これをすればいいことだけなので、進めれば全然可能なことですから、特に問題は無いと思います。

○議長（佐々木大三郎君） 12時になりましたが、このまま続けます。

10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 市長、もし今3カ所と言いましたが、それ以外にも私はあると思いますよ。その調査をやるかやらないかはどうか。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 調査をするということはいろんな調査の仕方があるので、まず簡単にできると思います。例えば、広報の中で入会権についてその情報収集する、もしくは遠野テレビで周知して、こういうところに入会権がありますよとかいうものを集めると、まずはそういう調査をして、それを確認していくことができるので、まずそれを、その情報を集めると

いうことは簡単にできますから、可能だと思います。

○議長（佐々木大三郎君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） ぜひ実態をつかんで、取るべき策を考えていただきたい。私何でこれまで気にするかというと、入会林野は1反歩や2反歩の小さな面積じゃないんですよ。10町歩、20町歩、多いところは100町歩もあるわけですから、これがどんどん進んでいくことによって、その大きな面積が手つかずの状態で放置されているんだよということですよ、最後は。

遠野の市長がいつも若いこれからの世代に引き継ぐ、素晴らしい市を引き継いでいくと、そういうお考えがあるから、私も一緒になってそのことに危機感を持って考えているわけですが、そういったことを意識して、私は取り組んでいただきたいと思います最後にひとつ。

○議長（佐々木大三郎君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 情報収集して、やれる例えば人数であるとか、そのレベルがありますよね。これあれば難しいことじゃないと思いますので、やるべきだと思いますから、これ一緒にどちらかということと伴走しながら、一緒に考えて調査して対応していくということで、できるなというふうに思います。

○議長（佐々木大三郎君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） ただいまの質問は、「多分今日一般質問見れないから、録画しとくからな」っていう、ある人から一報を頂きました。多分、今晚頃見ていると思いますが、そういう対象となっている方々は、今の市長の答弁、期待をして喜ぶと思いますので、ぜひ私たちも一緒になって、これから市のほうにどんどんそういう要望も出しますから、ぜひ一緒になって取り組んでいただきたいということを申し上げたいと。

お昼過ぎて大変恐縮でございましたが、長々とお付き合いを頂きまして大変ありがとうございます

います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（佐々木大三郎君） これにて一般質問を終了します。

お諮りします。本日の会議はここまでとし、散会したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（佐々木大三郎君） 御異議なしと認めます。

散会の前に連絡事項があります。

決算特別委員会は午後1時半開始でありますので、行き違いのないようにしていただきたいと思ひます。

散 会

○議長（佐々木大三郎君） 本日はこれにて散会いたします。御苦労さまでした。

午後0時05分 散会

